



東北地方太平洋沖地震により、亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りすると共に、被災されたみなさま、そのご家族の方々へ、心からお見舞いと、一日も早い復興をお祈りいたします。
また当学会におきましては、来る6月に年次大会を盛岡にて企画しておりましたが、関係者の方々の多くが多大な影響を受けられましたので、開催時期、内容などの予定を一部変更いたします。

★ 第4回年次大会 in 盛岡 ★

開催会期・会場が変更になっています。ご注意ください。

URL: <http://jne4.web.officelive.com>

テーマ：チーム医療における協働的意思決定の展望

会期：2011年8月28日(日)

会場：岩手県立大学 看護学部 (会場 URL: <http://www.iwate-pu.ac.jp/>)

岩手県滝沢村滝沢字 152-52

今年の年次大会は先の地震による影響を鑑みて検討した結果、上記のように変更して開催されることが決定いたしました。当初の6月開催にあわせて、研究や実践などの発表や、交流集会などを予定されていた参加者のみなさまには、ご迷惑をおかけすることとなりましたが、ライフラインの復旧もままならない最中、岩手県立看護大学 安藤広子大会長を中心に、事務局のみなさまが開催時期、場所、内容など早急に討議していただき、一部変更しながら、このような開催にこぎつけることとなっています。本学会のモットーは、《参加型の学会》です。全国のみなさまとともに岩手の地に集まり、それぞれの研究成果や実践を通して感じる思いなどを共有する・・・そんな機会となればと思っています。そしてまた、この辛い日々の中、看護とは、倫理とは・・・それぞれの立場で感じておられることを、ぜひ一緒に考えられるような大会になればと願っています。

プログラムの詳細などについては、上記ホームページ、同封のお知らせなど、ご参照ください。

【暑さに負けず、今年は岩手で看護倫理を語ろう！】

～★ 倫理に関する Hot topics !! ★～

海外の研究倫理審査事情・・・

みなさんの職場には、**倫理審査委員会**はありますか？「当然です」という答えが殆どでしょうか。「作らなくちゃとは思っているのですが・・・」という方もいらっしゃるかもしれません。「あるのですが、どうもその内容が・・・」とか、「委員になったけれど、なかなか難しくて」などという意見もチラホラ聞こえてきます。ひとを対象とした研究を行う際には、倫理審査をかけなければいけない、ということは、ある程度浸透してきています。それは学会などで発表、投稿する際に、「**倫理的配慮について、必ず記載すること**」と明記されていることが増えてきたこともあるでしょう。研究の対象となるひと(被験者)の保護の観点から、研究の倫理面に特に注目し、審査を行うのが倫理審査委員会、名称は施設などによっても様々です。また、看護研究だけを扱う独自の委員会を、看護部や大学で持っている場合もあります。しかし、**モラル面**(例えばデータの捏造や盗作など)については、ある程度容易に理解できますが、各種研究における倫理については遺伝子解析研究、疫学研究など含め、医学研究を主眼とした**指針**が整備されてきているものの、過去には倫理審査というシステムがなかったため、まだまだ理解が不十分なことも多いのが事実です。したがって、たとえどのような形式の倫理審査委員会が設置されても、その役割が十分に果たされておらず、みなさんが疑問に思うような状況が生じるわけです。つまりこれは、**【研究者も委員会の委員も、倫理審査に慣れていない】**ことから生じる問題なのです。そこで今回は、倫理審査に関しての整備が進んでいる米国の事情を少し紹介したいと思います。

米国では、研究の倫理審査を取り扱う**事務局 OHRA(Office of Human Research Administration)**が整備されていて、州や施設による差はありますが、8割程度の研究は事務局のスタッフが詳細に倫理審査を行った上で、承認されるシステムになっています。この背景には事務局のレベルで承認できる**規定**があることと、**PRIM&R(Public Responsibility in Medicine and Research)**という研究倫理審査に関する組織があるのですが、事務局で倫理審査にあたるスタッフは、この組織の研修を通して**認定(CIP)**を受けることが義務づけられているからです。**PRIM&R**では、研究倫理審査に関わる事務局や倫理審査委員会委員、研究者などが集まり、**研究倫理の基本的な事項**から、**最近問題となっているトピック**まで議論します。しかも、年1回の大会と、分科会などが年に数回(動物対象などの集会も含む)開催されているので、参加することで**知識の確認、更新**などができるわけです。例えば年に1回の大会には、全米のみならず全世界から 3000 名を超える参加者が集まります。米国はもちろんのこと、アフリカや中国、イスラム圏など多種多様な国の文化的背景を持つ人々が、全世界で行われている医学研究に関して議論し、理解を深めるという目的で一堂に会する様子は、圧巻です。その内容は、ひとやヒト由来の組織を研究対象とする場合の**倫理的課題**は何か、どのようにしたら**被験者リスク**を最小にできるか、**科学的な研究**とはどのような手法が使用されるのか、**軍人・囚人・妊婦・小児**など弱者を対象とする際の**留意すべき点**など、参加者の背景(たとえば研究者ではない委員向けなど)に配慮された多種多様なメニューが用意されているのです。中には米国らしく、**連邦法、州法、施設の規定**が異なる見解がある場合にどのようにしたらいいか、などの内容も盛り込まれています。また、それぞれの研究資金から**数%ずつ**倫理審査に関する必要経費を計上するシステムがあるため、研究が盛んになればなるほど、倫理審査事務局 OHRA の運営費は潤い、**専任のスタッフ**も雇用され、より丁寧に倫理審査が行われるということになります。一方で、米国において倫理審査が整備されるようになった背景には、過去に黒人を対象とした非人道的な医学研究がなされた**反省**や、膨大な医療費を個人負担できない人々が、研究の被験者になることで治療を受けることになるというような、**社会問題**も潜んでいます。米国も日本も、それぞれに問題や課題はありますが、**研究成果を社会に還元するための倫理的アプローチ**について、看護研究だけではなく、医学研究の対象となる方々のケアを担当する看護職として、理解を深める必要があります。**【被験者保護】**という、看護職としては最も理解しやすく、身近であることから研究倫理に近づいてみませんか？

情報・紹介コーナー

今回の震災に伴い、いろいろな情報がメールリストやインターネットでも飛び交い、かえって混乱を招いていることも事実です。ここにご紹介した情報は、そうした中で現状を把握する、頭の中を整理する、看護職として考えるなど、ほんの一部の情報です。ここに記したものが全てではなく、むしろ情報を確認したり、改めて考えてみたり、それぞれにできることを考えるための資料としてください。

* 災害看護・医療支援に関する情報 *

災害看護（兵庫県立大学）

災害看護に関する情報がまとめて掲載されています。看護職として知っておくこと（対象別）、それぞれの時期に合わせた支援などについて、アタマの整理ができるサイトです。

<http://www.coe-cn.as.jp/21coe/link.html>

WHO 震災関連レポート

日々取りまとめ、WHO から世界に発信されている情報です。日本語に訳されているので参照ください。

Situation Report <http://www.who.or.jp/sitrepsj.html> 日本語版

Q&A <http://www.who.or.jp/indexj.html> 日本語版

医療支援 実践など

東日本大震災の関連記事特設サイト（日経メディカル）被災地医療の実際など、体験談など紹介されています。

http://cmad.nikkeibp.co.jp/?4_99385_215440_8

救援物資受付（一時休止となっているところも多いので、留意ください）

自治体への問い合わせ、各都道府県の参照先が掲載されています。

<http://www.kantei.go.jp/jp/kikikanri/jisin/20110311miyagi/sien.html>

* 放射能に関する情報 *（主に子ども、妊婦、保護者向け）

「教育現場の皆様へ 放射能を正しく理解するために」 学校関係者・保護者向け

<http://www.pref.fks.ed.jp/sinsai/advice/rikai.pdf>

日本産婦人科学会「大気や飲食物の軽度放射性物質汚染について心配しておられる妊娠・授乳中女性へのご案内（続報）」

http://www.jsog.or.jp/news/pdf/announce_20110418.pdf（4月18日付）妊婦・授乳中の方向け

東日本大震災被災妊産婦さん支援 『東京里帰りプロジェクト』

公式 HP: <http://www.satogaeri.org/> ツイッター: <https://twitter.com/#!/satogaeri>

～編集後記～

甚大な影響がある地震・津波・原発・・・心から安心して暮らせる日本へと、日々それぞれができることを今こそ積み重ねるしかないのかもしれませんが。そして、家族・生活・暮らし・・・当たり前のことが幸せなのだ、あらためて感じさせられます。今回は少し、いつもと異なったニュースレターとなりましたが、またいろいろなことをみなさまと共有できたらと思います。

（広報委員会一同）